

3

浦安被爆者つくしの会 20年を振り返る

■はじめに

浦安市は、昭和60年3月29日に非核平和都市を宣言して以来、様々な非核平和事業を行ってきました。日本には被爆者手帳を交付された方々が現在約20万人、千葉県には約2,700人、市内には約100人います。

浦安市内の被爆者の方々の中で、被爆体験者の平和活動への参加と、会員相互の親睦を深めることを主な目的として活動している「浦安被爆者つくしの会」があります。つくしの会は、これまで市で行ってきた様々な非核平和事業に協力し、市民へ戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えてきました。

平成25年に設立20周年を迎え、この機会に会員の平和への思いやこれまでの活動を振り返ります。

■会長あいさつ

「創立20周年にあたり」

浦安被爆者つくしの会会長 益田 敏夫

創立20周年を迎えるにあたり、浦安市当局より記念誌発行の望外のお申し出を戴きました事にまず感謝申し上げます。

嘗て、葛南地区を二分する一方の市川市被爆者の会(S59発足)に参加していた少数の浦安在住者の、浦安市非核平和都市宣言(S60)を経、加入が徐々に増え(S62)、市制10周年(H03)には9名に達し、市川の会の暖かい声援を受けつつ、幾度かの準備会合を経、平成5年9月18日10名の会員を擁して独立しました。「つくしの会」の名称は初代会長大串五郎氏の、はかなげな土筆がやがて土中深く根をはり繁茂してスギナになるように成長しよう、との意が込められたものであります。以来高齢化の進む中、消長を続けながらも今日名簿上20名の会に到っております。

疾病に罹り勝ちな被爆市民が当時91名を数えるに至り、浦安市内に原爆被爆者指定医療機関の設置・増設への働きかけを始め、更に悲惨な体験を通して世界平和の実現の礎にと、語部活動の機会獲得折衝など、先人達の零からの出発に較べ、現在の私共は、殊に市当局のご理解の下、大変恵まれた環境に変わりました。改めて先人の苦労を踏まえ、戦争体験や戦争認識風化の進む中、世界唯一の被爆体験者の立場から、非核平和宣言都市に相応しいお役に立つことに聊かなりとも向かい続けねばならぬと思慮いたす処であります。

今日に到るご支援を戴いてきました浦安市当局、千葉県原爆被爆者友愛会、暖かいご声援を戴いてきました市川を初めとする近隣都市被爆者の会や関係の皆様感謝の念と共に、今後の変わらぬご指導ご鞭撻の程を、此の機会に重ねて、お願い申し上げます。

■祝辞

「浦安被爆者つくしの会創立20周年祝辞」

千葉県原爆被爆者友愛会 会長 青木 茂

浦安被爆者つくしの会の皆さん、会創立20周年をお迎えになり、誠におめでとうございます。

貴地は千葉県下、東京に最も近い都市として発展してきました。そうした関係でしょうか、県内でも洗練された形で、市当局の平和事業の一つ、今や恒例となっている長崎平和使節の市民の皆さんへの被爆体験講話に協力されると共に、小中学校で平和の有難さ、戦争や原爆被害の悲惨さを語り伝えておられます。

浦安市では皆さんの活動を評価され、市民功労賞が授与されましたが、県内でも社会福祉協議会よりの被爆者の会への表彰はありますが、市民功労賞は唯一の事です。

また、私共友愛会活動に対し、積極的にご協力いただき、国会議員への誓願、厚生労働省との折衝や、慰霊式典や語り継ぎ研究会において重責を務めて戴き、友愛会の発展に大きく貢献されています。

今後共、洗練された知性を活かされ、多くの連携の取れずにいる、そして高齢化していく被爆者の組織化やその運営につくされ、友愛会の活動推進に努めて戴きますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。おめでとうございます。

■浦安被爆者つくしの会

浦安被爆者つくしの会は、広島又は長崎の原爆被爆体験者がともに深い理解と愛情のもとに、平和諸活動に参加し、会員の健全なる親睦と友愛の絆を発展していくことを目的として、平成5年に発足した団体です。以来20年の永きにわたり、会員の高齢化が進む中で、核の恐ろしさや平和の尊さを、青少年をはじめとする市民に対して継続的に伝え、市民の平和意識の高揚に貢献してきました。

特に市が推進する非核平和事業について深く認識し、平成13年度から毎年市と共に、自らの被爆体験を語る被爆体験講話を市内の各小中学校で実施しているほか、広島・長崎に原爆が投下された8月6日及び9日に原爆死没者の冥福と世界の恒久平和を祈り、黙祷を捧げていただくことを目的とする、浦安市非核平和街頭キャンペーンに参加協力するなど、様々な活動をとおして、非核平和理念の浸透に貢献しています。

■市民功労賞

浦安被爆者つくしの会は、平成22年にこれまでの活動が評価され、市の発展、公共の福祉の増進、文化の振興などに功績のあった市民として、市民功労者表彰を受賞しました。



市民功労者表彰状

■会員メッセージ

ここでは、会員の方々から寄せられたメッセージを紹介します。平和への切なる願い・原爆の恐ろしさ・自らの被爆体験など、会員の様々な思いが寄せられています。

「一枚の被爆絵」

益田 敏夫(被爆地：長崎)

亡父の友による、今は撤去されてしまっていない、被爆後1年も経たぬ浦上天主堂の絵を居間に架けている。後に誌上よく見かけることになる写真、天主堂の正面入口を中心に天主堂の象徴であった、左側の鐘楼、入口アーチの更に上部の薔薇窓や三角屋根を支える石と煉瓦の構造体更に外壁に沿う石の彫像等が引き千切られ、吹き飛ばされた構図から、此の絵は入口と僅かに残るその奥と入口直上部だけの他の諸々の惨状を切り取った極く控えめな部分絵である。私は暫く此の絵の、被爆の「記録」としての意味が汲めずにいた。

静謐な英文学者である作者の目が分ってきたのは、建築を専攻して暫く経ってからであった。絵に静対すると石造入口アーチに亀裂があり、そこを境にアーチの左右が破断しており、入口から会堂の奥に至る天井のアーチも暗い影で同じ破断が僅かに描かれている。これは建物全体に天上から想像を超える爆風が一瞬に加えられ、要めのアーチが構造上の機能を全喪失全面倒壊に等しい事態を、この細部に集約して静かに描かれていることに気付いたのである。

西欧中世来「アーチは眠らず」の諺がある。建物上部の重量が正しくアーチに伝播されないとアーチやその周辺の構造体に歪みが蓄積され、やがて其処にきしみ音が夜な夜な聞こえ出し、時を経て局部の変形が限界を越えると、建物の部分或は全体が崩壊に至る、引いては兆候を見逃さず早めに手を打て、の謂いでもある。

原爆の灼熱と放射線、それらが現在に至るも及ぼしている不条理は描かれてはいないが、少なくとも爆風が通常兵器の枠を超え、正常でなくとも保つ建物何百年の経緯を一瞬に奪ったことを簡潔明瞭に、この絵は語っている。

「よくぞ生きながら得た68年」

河口 正博(被爆地：広島)

昭和2年生 被爆当時の年齢満18才

法第2条による区分 第1号

被爆の場所 広島市千田町3丁目 広島工専内(爆心地から2.0km)

被爆直後の行動：8月6日 原爆投下の爆風による校舎の倒壊と共に気絶、生気に戻ったのは重傷にて、似の島検疫所に送られた、午後4時30分頃

被爆時の外傷・熱傷の状況

：左頭部に2条、10cm、8cm程度の裂傷、咽喉部に深さ3cm程度の裂傷、その他顔面各所外傷

被爆当時の急性症状(おおむね6ヶ月以内)

：8月9日に似の島より、郷里の豊田郡川尻町へ帰るも再び、広海軍病院に入院、白血球1500まで低下。下痢症状が続き頭髪も除々に脱落した。

過去の健康状態とかかった主な傷病名および時間

：近視度数が0.6～0.8のものが、倍以上に悪化。出血多量による貧血状態、頭部打撲による傷の化膿と、健忘症が約一年続く。原因不明の下痢と、変調体質が7年位、時折に発生した。

申請時の証明者：機械科同級生の槇尾憲之・片島三朗君の二人

死没後には、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館へ届けられることとなっている。

〈被爆後68年も生き残れた理由〉

- 1、広島市内の2K地点で8：15分の爆風で校舎は倒壊して下敷きになり、気絶して意識不明の状態であったこと。市内の殆どの家屋が倒壊して火災が発生、延焼したにも関わらず2キロ地点の専門学校には、火が回ってこなかった事。(自力で退避出来なかった人は、殆どが焼死している)
- 2、宇品の船舶隊の救援部隊によって、気絶した俣にトラックで運ばれ、船(上陸用舟艇)で似島の検疫所まで避難していたこと。出血多量で、喉が渴いていたが、黒い雨(放射能を多量に含んだ雨水)を飲むことが無かった事。
- 3、似ノ島にて、三日間は軍隊の炊き出しの粥で、生気を取り戻した事。
- 4、被爆後3日たって記憶を取り戻して、故郷の呉市川尻町の両親の元に帰る事にし、島からの帰途、徒歩ながら学校に辿り着き、似ノ島へ避難して居たことを報告、罹災証明書を貰って、駅に向かう途中、私を捜しに来た母と叔母に遭遇したこと。従って、二次放射能の潜在する広島市内を、比較的速やかに退去した事。
- 5、学徒動員中の身分ながら在郷軍人扱いで、広の海軍病院へ入院出来て、都築軍医による処置を受けた事。
- 6、被爆後一年以内に、頭髪も抜け落ち、原因不明の下痢症状が続き、結局は28日の断食、(ブドウ糖の静脈注射)で、18歳時の古き細胞が、全部新陳代謝により入れ替わった事。
- 7、頭部の裂傷には、母方の祖母の知恵で頭部打撲には、カキ洪が好いと約200cc程半強制的に飲まされた。
- 8、被爆後10年間は、アルコールが好いというので、意識して酒を多く取りすぎた。
特に、20歳代は好く、酒を飲んだ。
- 9、昭和24年に上京就職、翌1950年(昭和25年)以来、63年もの食生活を支えてくれた妻の内助の功も充分あると思う。
- 10、若い内に、二女を育てて家庭的に、精神的に慰め勇気づけられた。早い独立ながら、自分だけの所帯を早くに持ち、家族の為にと将来をと努力してきた事が、成功したと思う。
- 11、現在、86歳耐用年数を遥かに超えた身体で、病院の定期検査と療養を続けながら今後の老後を、楽しみたいと考えております。

娘達に迷惑をかけないよう、死後の墓地・墓まで全て段取りして、迎えを待ちたいと考えております。

平成25年5月

「私の被爆体験」

出羽 文明(被爆地：広島)

わたくしは、大体が「おめでたく」出来上がっていきまして、(私が行っている)小学校での講話の出始めにでてくる「その日そのとき」の節で、わたくしは、広島県立三次中学校三年生でして、昭和20年(1945年)8月6日、学徒動員で呉市広町の海軍第11空廠に向かって出発し、三次駅を出たのが、朝8時の汽車でした。

広島の一駅前、矢賀着はほぼ10時頃で、広島上空でさく裂したのはウラニウム爆弾で8時15分…被爆の恐ろしさ…いつも講話の最後には「戦争は災害？人災？」と問えば、最近の小学生は災害には詳しく、また原子力災害にも関心がある。＜「戦争」は人の心の中で生まれるもの＞と説けば納得顔をしてくれやすい。

当日は、被害者(被爆者とは未だ解らない)を助けながら目的地の呉にたどりついた。ところが寮には先住者(?)が待ち構えていた。蚤・蝨(シラミ)・南京虫である。この状況を理解させるには困難で教科書にも掲載されていない。ここでも「おめでたく」(良運にも)、父親が数個ものペコ缶(除虫菊の粉末入り)をリュックに入れてくれていた。BHCやDDT(共に殺虫剤)などは、1,2年後の米軍のプレゼントだった。

8月7日から1週間は焼夷弾の空弾を集め、15日昼飯後にラジオ放送。ここで「良運にも」終戦。何日後に帰郷出来たか、記憶全く無く、ありったけの白米を出して食わしてくれたことは明確に記憶している。

あれからあっといふ間に「良運にも恵まれ」て68年間、他力で被曝量・放射線量・除染、がやや理解され、浦安で声を張り上げて20年にもなった。

これからは「おめでたく」・「良運にも」と具合良く行かないのではないか、これ以上に「説けば納得顔をしてくれやすい」多くの小学生を共に倍增していく必要がある。

「原子の灯は」

宇田川 太江子(被爆地：長崎)

1945年8月6日8時15分、同月9日11時2分広島・長崎は原子爆弾の投下を受け一瞬にして死の町と化した。あの日から68年を迎える今年、残された被爆者の平均年齢は77歳を有に超える。

その原子の火は1938年12月ドイツの実験室で灯った、と聞く。

原爆投下の7年前である。そして原子の核分裂による膨大なエネルギーは、アメリカのルーズベルト大統領の命を受け、マンハッタン計画として、5万人の優れた科学者と技術者を動員して、約2兆円ほどの費用をかけ、原子爆弾となった。それにより35万人もの尊い人命が失われた。

いまだに原子の灯を速やかに消す術はない。

被爆医師の肥田舜太郎先生は「核のエネルギーと人間は共存できない。核兵器をなくし、原発を一つでも失くすことが子孫のために、何よりも大事だ。」と。

被爆の実態を一人でも多くの人に語り伝え、核不拡散、核兵器廃絶、世界の恒久平和を唱え、自らに課せられた小さな使命として、一すじの光をたどり歩を進めたいと思う。朗らかな明日を信じて。

「記念誌発行に寄せて」

松本 富士子(被爆地：広島)

市川被爆者の会から独立して、「浦安の会」発足の準備が始まった平成4年は、浦安では待ちに待った京葉線が東京駅まで全線開通して2年、新浦安駅前も整備され買い物も便利になり、ようやく新天地に引っ越してきて良かったと実感していた。また東海道新幹線「のぞみ」が運転開始、ハウステンボス開業、バルセロナオリンピック開幕、毛利衛さんが宇宙空間へ飛び出すなど、日本は活気に満ちていたが、発展途上では原子力発電に頼るという現実があった。被爆者は原発反対の姿勢を取りながらも積極的な行動を起こしていなかった。私が埋立地住人の先発隊で浦安に引っ越してきて14年経った頃である。

被爆者の会の存在は、横浜市在住の母が「浜友の会」会員であり、よく承知していたが、川向こうは東京都という地の利の上、夫の職場や娘の学校も東京にあり、千葉県人というよりむしろ東京都民の感覚で暮らしていた。そんな夏のある日「浦安に被爆者の会を作りましょう!」というミニコミ誌の呼びかけ記事を目にした。10月4日は「ウェーブ101サロン」へと足は向かった。恐る恐る会場に入ると、そこには長崎の銘菓福砂屋のカステラが用意され、懐かしいお国訛りで暖かく迎えてもらった。この呼びかけで参加したのは、私一人であったと知るのは、大分後になってからのことである。あれから20年、原子爆弾の被害にあった者同士の連帯感や労わり合いに加え、戦中戦後の状況をよく知る年長者の会員から学ぶことは少なくない。被爆時が例え幼子であったにせよ、生き証人として何ができるのか、未だ問いかけつつ彷徨っている。

「なぜ」

土屋 三千恵(被爆地：広島)

私は 72歳の今 まだこの世に居る

だがあの日 お隣の翠ちゃんは
原爆の直射を受け 焼かれてしまった
道路で 私を待っていていたばかりに
わずか5年の「生」であった

戦後 遺された人々はまだ 戦っていた
瓦礫と 生活苦と 不気味な後遺症の恐怖と

一緒に修学旅行に行った澄江ちゃんは
卒業式には出られなかった
原爆症が 12歳少女の「未来」を奪った

なぜ
なぜ人間は
愚かな戦争を始めてしまうのか

「再生可能なエネルギー研究に期待」

三船 俊子(被爆地：広島)

専業主婦でのんびりだらりと過ごしていた私にある日夫が言った。「小さな事でもいい。何でもよいから何か人のために役立つことをしてほしい」と。折から市川の被爆者健診で松本さんと出会い、迷うことなくつくしの会入会を決めた。以後役に立つ活動をしてきたかと問われればはなはだ恥ずかしい限りだ。

「語り部」の役をヒロシマの被爆女性3人一組となって10回位してきただろうか。他の二人は被爆体験を、私は3才だったので確とした記憶がなくヒロシマの被爆少女「林 幸子」さんの「ヒロシマの空」という詩の朗読をした。悲惨な被爆体験と詩の朗読の後で核爆発の原理とその巨大エネルギーについて説明した後、私はまとめとして次のように言ったことがある。「核分裂で生じる巨大なエネルギーを原爆といった兵器に利用するのではなく、平和的用途に活用して欲しい。例えば原子力発電のように」と。ところが2011年東北の巨大地震による福島原発事故が発生。とてもショックだった。子を持つ親の放射能被爆への不安はいかばかりかと胸が痛む。

今年の7月初旬、私と夫は東北支援を兼ねて福島の会津を4日間訪れた。大きなホテルはガランとしてお客はわずか数組のみ。ホテルでも、みやげもの屋でも、道の駅でも、嘆きの声は同じで「福島第一原発からかなりの距離があっても、福島というだけで県外からはほとんど人が来てくれない」と。折からのNHKの応援番組「八重の桜」の旗は至るところにあったが虚しくはためくのみだった。この大河ドラマに大いに期待していた福島県民はがっかりしていた。放射能の風評被害はすさまじい。

癌の治療などに使われる放射線源は原子炉内で作られるのだということを聞いたことがある。そういう医療目的の放射性物質もなくてよいと私は言うつもりはない。そういう目的の原子炉は意味を持つ。しかし、それまで安全だと信じられていた原子力発電は、2年前の大地震でその脆さを露呈。エネルギー資源の乏しい日本にあっては最も経済的な発電方法といわれてきた原子力発電であるが、今まで考えていたより遥かに莫大なお金を使っただけの安全対策が必要だと思い知らされた今となっては話が変わる。経済性に疑問視されていた種々の発電技術にも新たな視点から資金も投じて再生エネルギーを開拓する必要があると強く感じる。これまでに研究・開発されてきた太陽光・太陽熱・風力・水力・波の力・地熱等々の他にもまだあるのではないかと。先月NHKの特集番組で、沖縄での海洋温度差利用の発電法が紹介された。原理的にはずっと以前から知られていたことのようにであるが、環境に優しく、再生可能で、まさに無から有を生ずるという魔法のような話に嬉しくなった。

「被爆者からの手紙」

上川 渥(被爆地：長崎)

私は長崎生まれで、昭和20年8月9日原爆が投下された時は中学3年生で、造船所のトンネル工場に働いていました。

11時2分、工場の電灯がパッと消えた瞬間、強烈な爆風が吹き込みその場に座り込んでしまいました。しばらくして、外へ出てみると黒煙が立ちこめ何も見えなかったので、8月1日に次ぐ2回目の長崎大空襲かと思いました。

夕方5時ごろ、帰宅のため船で長崎市に近づくと、浦上方面、駅前、県庁まで燃えているのがわかりました。旭町の桟橋に着くと、家はめちゃくちゃに壊れ、物が散乱しているのを見て驚きました。

船を降り、三菱電機工場の前を通ると、電柱は倒れて燃えており、屋根瓦や障子、戸は全て吹き飛んでいました。その夜は防空壕で一夜を過ごしました。

家を補修して、どうにか住めるようになりましたが、食糧や塩、味噌もないため大変困りました。その上燃料がないため稲佐山の木を切り倒し一時凌ぎの悲しくて辛い毎日を過ごしました。

8月6日広島上空で爆発した原爆は、その年の内に14万人の命を奪い、9日長崎上空で爆発した原爆は、7万人の命を奪いました。

原爆の火球は、爆発した瞬間数百万度の高熱に達し、地表でも3千度～5千度と推定されています。太陽の表面温度は6千度だそうですので、目前に太陽を見たような熱線を受けたことになります。

爆心地から600m以内では、瓦の表面は溶かされ、人間は丸焦げで、2km以内でも火災を引き起こし多くの死傷者が出ました。

また、核分裂で多量に放出された放射線は、人間の細胞を破壊し、DNAを傷つけたりして内部被曝を受け体内の五臓六腑も壊し、白血病・甲状腺の病、癌が発生して一生苦しむ運命になるのです。

福島原発の事故も原爆と同じで、放射性物質は10年経っても消滅しないため、一生苦しむことと

なるので注意されたほうが良いと思います。

人生の幸せのため、核兵器や原発・戦争のない平和な世界実現のため、私たちと共に頑張りましょう。子供たちの将来のために。

「母の遺文」

涌井 正樹(広島被爆二世)

私の母が21年前、つくしの会立ち上げを楽しみにしつつ、その実現僅か前に急逝しました。

今、人の親となり改めて、この文を目にし、直接の体験なき二世として被爆を問う原点を感じました。時代の真実を見失うことの反省をこめ、母ひさよの残した文を再録させていただきます。

流燈 広島市女原爆追憶の記から

友垣

不惑はとっくの昔、花の四十代と張切ってみても、ここのところ減法老けこんで、分別臭い事を言っても、してもみる今日此の頃。

あれからもう三十余年の歳月が経ってしまったのでしょうかねえ。

私、原爆に因る満身創痍で生き長らえ、今だ業多き故、恥ずかしい事ばかりの中年おばさんとなり果て、諸先生方にも同窓諸姉にも汗顔の体たうらく。

しかし、あの日、かわいかわい 女学生だったお子達の生身を焼かれ、生身を裂かれ生身を押し潰された親御さん達と同年配となった今、現在に続くその嘆き、悲しみに思いを馳せ、むごたらしを怒り、唯々、涙してしまうのです。どんな大義名分があっても、戦争はやってはならないと思いますね。よしんばお国の為であっても、なにびとも死んではならんと思います。この世に、死と引き替えになるものは無いんじゃないかと思いますね。

戦争に使用されたあの膨大なエネルギーを戦争を避ける為に使う事は出来なかったかと亡くなった人、残された人を思う時、残念で残念でなりません。



広島市高等女学校 二十四回生 涌井 ひさよ

昭和五十二年八月六日著

「あの日」

大矢 龍夫(被爆地：広島)

毎年その日は不思議に朝からぎらぎらと真夏の太陽が照りつけ気温がぐんぐん上がって気だるい一日となる。そしてその眩しく光る空を見上げると決まって「あの日」のこととそれに続く日々が思い起こされるのである。

「あの日」の朝早く広島から呉に向かうバスの中にいた。吊革に掴まりながら未だ覚めやらぬ眼で車窓を流れて行く瀬戸内の海を見るともなくぼんやり眺めていた。まだ朝の八時というのにかなり気温が上がっているのか、開け放たれたバスの窓から入ってくる風は生暖かくて気だるさを誘いこそすれ眠気を覚ましてはくれない。

昭和二十年に入って全国あちこちの都市への空襲の報が相次ぎ戦争がより身近に感じられるようになって、我々広島高等学校の生徒も広島の郊外にある軍需工場の寮に泊り込み、半日授業、半日工場勤務という日々が続いていたが、昨夜寮長より明八月六日は月曜日だが工場の電休日に合わせて授業も休講になる旨の通達があり久し振りに栄養補給を兼ねて呉にある実家に帰ることにして、今朝はい

つもより早く起きてバスで呉に向かっていた。

大屋橋を渡り間もなく天応だと思ったとき突然、パッ！とバスの中が真っ白に光った。はっと思うと同時にバスは急停車する。何だろう？というように乗客がお互いに顔を見合わせていると“ズシン”と腹に響く衝撃がきてぐらっとバスが揺れた。「降りて下さい」という運転手さんの声を待つまでもなく我先にとバスから降りて側溝に身を伏せていた。

それから全くの静寂の時間、車の音も人声も何一つ物音のしない時間がどのくらい続いたであろうか。「ありゃあなんじゃろうか」という男の人の声で恐る恐る身を起こして男の人の指差す方向を見ると、白い中にピンクやオレンジの色を滲ませながら煙とも雲とも判らない物体がむくむくと盛り上がって行くのが見える。この物体は青空の中をずんずん上に成長して、ちょうど松茸のような形となって行く。「火薬庫でも爆発したんかのう」などと言いながら更に高く上がり、やがて傘の部分が横に広がってゆくのを眺めていた。

「バスを出しますよ」という運転手さんの声でみんな不審な面持ちのままバスに乗り込んで再び呉に向かった。呉の実家に帰ると広島に曳火性高性能爆弾が落とされ市内に火災が発生しているというラジオ報道があり、呉の海軍も動き始めているということだった。早速寮に帰ろうと駅に行ったが汽車もバスも動いていない。中学からの同級生二人に出会い歩いてでも帰ろうと広島に向けて歩き始めた。軍のトラックがどんどん広島の方に向かっている。民間のトラックに乗せてもらったり歩いたりして夕刻何とか寮に帰着できた。寮はかなりの数の窓ガラスが割れただけで建物は無事であったが混乱の最中にあった。夜になって全員集合点呼となったが百名近くの寮生が帰寮していないことが判明し、捜索班を編成して明日より捜索活動を行うこととなった。今朝ほどバス停で別れた同室の友田君も朝になっても帰ってこなかった。

翌朝四人一組で歩いて広島に向かうと市内の方から三々五々と固まった人達がのろのろと歩いて来るのに出会う。まともな格好をしている人はいない。ぼろ切れを身にまとい顔や手足は煤だらけ。「どうしたんですか？」と問えば、「目の前に爆弾が落ちた」と言葉少なに答え又のろのろと歩いて行く。次々と出会う人達からも同じような答えが返ってくる。何処で何が起きたのであろうかと不思議に思いながらも市内に近づくにつれて熱気と煙で進むのが難しくなり引き返す。

三日目はまだ余燼でかなり熱かったが何とか市内に入ることができた。所々にビルの残骸が残っているがあらかたの家は焼けてしまっていて、そこには身の毛のよだつような光景が展開していた。街路の至る所に倒れたままの人がいる。頭髮もなく衣服もあらかた焼けて男とも女とも見分けがつかない。あちこちの防火用水や蓋の吹っ飛んだマンホールに頭を突っ込んだまま動かない人達が目につく。焼けただれるような暑さの中で安全な場所を、或いは水を求めてたどり着いたのであろうか。さまよい歩く被災者の姿が目につくのが胸が痛む。生きている人は居ないようだ。

東練兵場に行くと広場一面に負傷者が寝かされていた。何百人いるであろうか。横たわった人達は皆ひどい火傷で顔も判然としないので、負傷者の間を「広島生はいませんか」と声を掛けながら歩く。「学生さん水を下さい」足元の女の人にすがられる。その手をみると火傷で皮が剥けぼろ切れのようにぶら下がっている。生憎水筒を持ち合わせていない。「頑張って下さい」と言って手を解く。練兵場の近くで倒れている大きな馬の姿が眼を引く。鞍はないが騎乗用の馬のようだ。乗っていた将校さんはどうしたであろうか。

相生橋の方まで行く。川の中を次々と死体が流れて行く。ゲートル巻きで上半身裸の人が多い。訓練中に被災した兵隊さん達であろうか。欄干が倒れている橋のたもとに後ろ手に縛られた若い米軍兵と思われる死体が転がっていた。(後註)負傷者の赤黒い顔ばかり見てきた目にはいやに真っ白な顔が印象に残るだけでこの惨状の中でもたいして憎しみも湧いてこない。ひどいとか、可哀そうだとか、憎いとかという感情を通り越して、目に映る光景の全てが、こんなことがこの世の中にあるのかという驚きばかりの一日であった。

四日目は少し落ち着いて水筒を持って出かけたが、東練兵場に着くと看護の方も見えていて、水は上げない方がよいと言われて負傷者にあげるのを断念する。東練兵場の負傷者の数は更に増えていた。女の人に「学生さん私は何処そこのだれだれですがここに居ることを家に連絡してくれませんか」

と言われたが、どうしようもなく素通りしてしまう。後でメモでも取ってあげていれば良かったなあと悔やまれた。この日は本校のある皆実町まで足を伸ばしたが寮生は見つからない。本校は火災は免れていたが講堂はじめ殆どの建物は押しつぶされ無惨な姿となっていた。本校残留組に負傷者が出たと思われるが人影はなかった。この日の夕方同室の友田君が自力で帰ってきた。八丁堀で電車に乗っていてやられたとのことで、頭に小さな切り傷があるだけで火傷はしていない。「よかった、よかった」とみんなで喜んだ。しかし彼は相当なショックを受けたのであろうか元気がない。蒲団に入っているときが多く、空襲警報が鳴ると「怖いから蒲団を被せてくれ」などと言う。「J君やO君(大火傷していたのを連れ帰っていた)達からみれば運が良かったのだからもっと元気を出せよ」と言い返していたが、二・三日してどうしても調子が悪いので実家に帰ると言って寮を出て行ってそのまま帰ってこなかった。後日談になるが、それから二週間程して彼のお母さんから友田君が亡くなった旨の連絡があったときには、全然火傷もしていないのに何故と、みんな驚くと同時にこの爆弾の怖さに身震いをした。私自身まさか彼が死ぬとは思いもしなかったのも、あんなことを言って申し訳なかったなあと心の中で謝ったことであった。

負傷した寮生を寮に連れて帰り、昼間は搜索活動をして夜は交代で負傷者の看護をする日々が続く。火傷が化膿してその膿に蛆が湧いているが、膿を食べさせた方がよいとそのままにしてある。夜、負傷者と同じ蚊帳の中において鼻の穴から蛆虫が入り出している友の顔を見ていると何でこのような目に遭わなければならないのかと何処へも向けようのない怒りさえ覚える。「苦しい」とか「残酷だなあ」とか言う友の声を耳にしても、してやれることは水を飲ますことか、団扇で扇いでやること位で「頑張れよ」と言う言葉も空しく、やり切れない思いばかりである。

五・六日すると市内の熱さは収まるが、色々な臭いが鼻につくようになる。蠅の発生が物凄く、雨が降って傘を差すと傘の内側が蠅で真っ黒になる。この頃になると搜索も行き詰まってきて、死体収容を手伝わされることとなった。真夏の暑さで遺体はすでに膨れ上がってみんな相撲取りのようになっている。この遺体を柱を立てた荷馬車に山盛り積み込む作業である。四人一組で手足を持って呼吸を合わせないと積み上げられない。仏さんに申し訳ないと思いながら一・二・三の掛け声で抛り上げて行く。時々揚げ損なってずり落ちることがあり「はっ」とする。こうした活動の日々にも空襲警報が鳴るが、もう無関心というか、やるならやってみろといった開き直った気持ちで防空壕に入る人は居ない。食糧は粗末なものだが何とか毎食食べられたが、薬品は殆どなく、蚊や蚤に刺されたところがすぐ化膿するのには閉口したがヨーチン(沃度チンキ)を塗って誤魔化していた。

八月十五日も朝から暑い日だったが、今日は重大な放送があるからとのことで広島市内にも出掛けず寮で待機していた。昼近くになって寮の中庭でラジオを聞いた。初めて聞く天皇陛下の声は雑音が多く、また祝詞のような節回しではっきり意味が聞き取れないが、そのうちあちこちで戦争が終わったらしいぞと言う声が伝わりだした。本当に終わったのであろうか半信半疑で部屋に戻りながらも何か脱力感を感じる。まだまだやらねばならないことが沢山残っていると思うのに無気力感がどんどん膨らんで部屋に戻ってしばらく仰向けにひっくり返っていた。

(註)平成11年12月23日、たまたまテレビを観ていて原爆が投下された後で見かけた相生橋のたもとで死んでいた米軍兵士の名前を五十数年経って知ることができた。昭和20年7月24日呉軍港を攻撃し戦艦「榛名」を撃沈したあと被弾し山口県柳井に不時着したB24の機長のトーマス・カートライト氏が来日して当時を回顧するドキュメンタリー番組が放映され、その番組の中で相生橋で死んでいた若い兵士が彼のクルーの一人アトキンズさんであることが判った。捕虜になって十数日後のことである。

(「私たちの平和を考える」より 平成25年6月改稿)

■これまでの活動



総会('96)



発会式('93)



非核平和街頭キャンペーン('96)



千葉県都市部経験交流会('04)



舞浜駅宣言碑除幕式('05)



つくしの会主催「被爆者米国遊説ツアー報告会」
講師：西岡洋('96)



市長表敬訪問('03)



「原爆と人間」展('03)



親子平和バスツアー随行('07)



原爆被災展('02)



原爆症認定PR('07)



非核平和街頭キャンペーン('07)



市民功労者表彰('10)



千葉県友愛会研修会('10)



非核平和都市宣言25周年記念「平和への願い2010」('10)



被爆体験講話(見明川中学校)('10)



被爆体験講話(明海小学校)('10)



千葉県原爆死没者慰霊式典('12)



被爆体験講話(入船南小学校)('10)



親子平和バスツアー('11)

■つくしの会年表

※印：市川被爆者の会に拠る

年 度	内 容
※1984年(S・59)	市川被爆者の会10名で結成
1985年(S・60)	浦安市非核平和都市宣言
1987年(S・62)	経験交流会(船橋、松戸、八千代、千葉、市原、市川、習志野)を開催。 会員数37名になる(浦安在住者3名)
1988年(S・63)	浦安の地域新聞に「入会のおさそい」掲載
1991年(H・3)	会員数50名 (浦安9名：涌井、六車、深松、野村、大串、内野、土屋、嵯峨田、弓削)
1992年(H・4)	ミニコミ誌「うらやすニュース」で、参加呼びかけの記事掲載 浦安市在住の被爆者9名、呼びかけに応じて参加した松本、市川被爆者の会の山口会長、里見事務局長、浦安の会結成につき12名で懇談(市民プラザサロン)
1993年(H・5)	4回の集会を持ち、種々懸案事項について会発足の準備を進め、大串会長、川又副会長以下の役員を決定 「浦安被爆者つくしの会」と会長発案により命名することを確認 発会式で名称と規約決定。会員10名。 浦安市歯科医師会長訪問 原爆被爆者指定病院数増加を要請 市長訪問：会設立の挨拶・活動補助金の要請 援護法案達成の為に国会要請 浦安医師会長訪問 原爆被爆者指定病院数増加を要請し、29件の加入を新たに 浦安市より被爆者団体育成補助金交付 被爆者医療指定歯科医院33医院に
1994年(H・6)	第1回総会・懇親会「入船東エステート集会所」 千葉県都市部経験交流会(松戸市) 大矢新会長選出 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 非核宣言自治体協議会全国大会総会及び記念式典参列(広島) 「第6回浦安平和の集い」参加 「うらやすニュース」へ会員募集記事掲載 友愛会役員と共に、市長、市議会議長へ被爆者の会結成のご挨拶
1995年(H・7)	第2回総会「美浜東エステート集会所」 千葉市原爆被爆50周年大集会参加 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 非核平和都市宣言10周年記念講演会参加(浦安市) 「うらやす21、平和を考える」スーパーネットワークTV出演 非核宣言自治体協議会全国大会総会及び記念式典参列(広島) 友愛会都市部経験交流会(習志野) フランス大使館へ核実験反対抗議デモ参加 「語り部」勉強会開催 講師：松戸被爆者の会 大野礼子さん(美浜公民館和室) 浦安市主催「非核平和を求める自治体と住民の交流集会」参加
1996年(H・8)	第3回総会「美浜東エステート」 保健所設置・バス優待乗車券支給を行政に要望 「バス優待乗車券を受給」

	非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 友愛会主催「日本原水爆被害者団体協議会」による学習会(認定被爆者・介護手当) 浦安市社会教育団体に認定される 千葉県都市部経験交流会(東葛地区) つくしの会主催「被爆者米国遊説ツアー報告会」講師：西岡 洋氏(市民プラザ小ホール)
1997年(H・9)	第4回総会・懇親会「美浜公民館第3会議室」 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 拡大例会 ミニコミ誌掲載「市内被爆者医療相談会」開催(美浜公民館大集会室) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 友愛会主催原爆写真展、映画「夏少女」鑑賞会参加 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(会員川又敦子合祀) 浦安市教育委員会主催「社会人活用公開研究会」にて被爆体験講話(美浜北小学校) 被爆者健診立ち合い(市川保健所)
1998年(H・10)	第5回総会「美浜公民館第3会議室」 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 千葉県都市部経験交流会(市川市民会館) 教育委員会主催 舞浜小学校6年生「広島・長崎被爆について」被爆体験講話 被爆者健診立ち合い(市川保健所)
1999年(H・11)	第6回総会「美浜公民館第3会議室」 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 千葉県都市部経験交流会(美浜公民館大集会室) 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 浦安市主催「非核平和映画会・語り部・パネル展」市民プラザ
2000年(H・12)	第7回総会・懇親会「美浜公民館第3会議室」 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 浦安市主催「原爆展」協力 長崎原爆被爆者慰霊式典(千葉県被爆者友愛会代表として川又哲夫さん)参列 千葉県都市部経験交流会(船橋高根台公民館) 被爆者健診立ち合い(市川保健所)
2001年(H・13)	第8回総会「オリエンタルホテル」 大矢会長退任、大串新会長選出 浦安市平和事業に協力 第1回被爆体験講話：南小学校 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 浦安市主催「葉祥明講演会」参加 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 千葉県都市部経験交流会(松戸市民会館) 浅川新会長選出 被爆体験講話：舞浜小・日の出小・入船南小・見明川小・入船北小 友愛会理事会主催「被爆者援護法説明会」

2002年(H・14)	被爆者健診立ち合い(市川保健所) 第9回総会「美浜公民館会議室」 浦安市主催「長崎市平和使節団担当者との交流」 つくしの会学習会 原爆被災展及び被爆体験講話(市民プラザ) 長崎平和推進協会被爆体験講話同行：北部小・入船中 市川被爆者の会主催「市川原爆絵展」見学 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 習志野被爆者の会主催「習志野平和の集い」参加 友愛会主催「ピースフェスティバル千葉2002」参加(パルルプラザ千葉) 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 被団協主催「臨界前核実験アメリカ大使館へ抗議デモ」参加 千葉県都市部経験交流会(習志野市生涯学習地区センター) 被爆体験講話：美浜南小・舞浜小・入船南小・日の出小・見明川小・美浜北小 松崎市長表敬訪問 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 千葉県都市部経験交流会(国民宿舎サンライズ九十九里)
2003年(H・15)	第10回総会 つくしの会発足10周年記念研修会 友愛会主催「ピースフェスティバル千葉2003」(千葉文化センター) 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) テレビ「シティリポート」録画撮り出演 市川被爆者の会主催「市川原爆絵展」見学 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 原爆被災展/長崎継承部員講話(市民プラザ大ホール) 原爆症集団訴訟第1回口頭弁論傍聴(千葉地裁) 千葉県都市部経験交流会(千葉市民会館) 発足10周年記念講演会 浦安市薬剤師会と共催「わかりやすい浦安市の介護保険」を開催 被爆体験講話：高洲小・浦安中・入船南小・見明川小・美浜北小 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 平成15年度平和学習事業(被爆体験講話)実態を松崎市長に報告
2004年(H・16)	第11回総会「市民プラザ」 親子平和バスツアー先検討(市職員と)(埼玉平和資料館) 原爆被災展及び被爆体験講話(市民プラザ) 友愛会主催「佐倉連隊調査会」報告会参加 原爆症集団訴訟 口頭弁論傍聴(千葉地裁) 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 浦安市主催：親子平和バスツアー同行(埼玉平和資料館) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 友愛会主催「ピースフェスティバル千葉2004」(千葉教育会館ホール) 市川被爆者の会主催「平和展」参加 友愛会主催「被爆証言」参加(千葉県庁展示室) 習志野被爆者の会主催「原爆絵展・平和コンサート」参加 被爆者健診立ち合い(市川保健所)

2005年(H・17)	千葉県都市部経験交流会(市原市五井公民館) 被爆体験講話：南小・浦安中・美浜南小・見明川小・高洲小・入船南小・美浜北小 千葉県原爆症集団訴訟第3次提訴集会参加 第12回総会「市民プラザ」 つくしの会主催 浦安市内施設バス見学会 友愛会主催「ピースフェスティバル千葉2005」(千葉市民会館大ホール) 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 浦安市主催：親子平和バスツアー同行(埼玉平和資料館) 国際市民会議参加(日本青年館) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 市役所主催 平和フォーラム及び広島・長崎原爆写真展参加 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 原爆被災展及び被爆体験講話(市民プラザ) 被爆体験講話：美浜南小・富岡小・南小・見明川小・美浜北小・入船南小・美浜中 市役所主催「非核平和宣言碑除幕式」参列(舞浜駅) 千葉県都市部経験交流会(市川市民会館) 千葉県原爆症認定訴訟口頭弁論傍聴 被爆者健診立ち合い(市川保健所)
2006年(H・18)	第13回総会「美浜公民館」 益田新会長選出 被爆体験講話：明海中・北部小・美浜南小・舞浜小・日の出小・見明川中 日の出南小・高洲小・浦安小 浦安市主催：親子平和バスツアー同行(埼玉県平和資料館) 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 千葉県集団訴訟第5次提訴前集会・訴状提出報告会参加(弁護士会館) 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 原爆症認定千葉訴訟第13回口頭弁論(千葉地裁)報告集会参加(弁護士会館) 千葉県都市部経験交流会(美浜公民館大集会室) 原爆被災展及び被爆体験講話(市民プラザ) 市長より被爆体験講話開催の感謝状受領 千葉県原爆症認定訴訟支援 「被爆者の願い」日比谷公会堂集会参加 千葉県原爆症認定訴訟行動参加(厚生労働省) 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 原爆症認定訴訟厚労省抗議デモ参加
2007年(H・19)	第14回総会「美浜公民館」 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 原爆症認定訴訟「熊本判決と東京行動」厚労省デモ参加 平和のための原爆展と被爆の証言(千葉県庁本庁舎多目的ホール) 浦安市主催 親子平和バスツアー同行(埼玉県平和資料館) 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 被爆体験講話：舞浜小・美浜南小・入船南小・入船北小・富岡小・高洲小 見明川小・浦安小・日の出小・南小・美浜北小 千葉県原爆症認定訴訟支援 千葉県都市部経験交流会(高根台公民館)

	原爆被災展及び被爆体験講話(市民プラザ) 市議会へ陳情書 浦安市議会議長宛「原爆症認定制度の速やか且つ抜本的改善と実施を国に求める意見書採択の陳情書」提出 原爆症認定100万人の署名街頭宣伝行動参加(新宿駅西口) 原爆症認定制度の抜本的改正を求め厚労省を包囲する集い参加 市議会陳情書発議 平野議員と協議 千葉県原爆症認定訴訟傍聴(千葉地裁) 市議会陳情書は市議会議長の裁決の下、国会と政府へ採択 平野議員報告会 被爆者健診立ち合い(市川保健所) 厚労省前行動参加
2008年(H・20)	千葉県原爆症認定訴訟参加(千葉地裁) 第15回総会「美浜公民館」 原爆症認定改善の陳情(衆議院議員会館) 原爆症認定実務講習会参加 厚労省行動に参加 被爆体験講話：北部小・明海中・高洲北小・入船南小・富岡小・舞浜小・浦安小 高洲小・見明川小・明海南小・南小 原爆症認定訴訟 有楽町マリオン前宣伝行動参加 文科省助成金事業 浦安子ども劇場主催「被爆体験講話」(市民活動センター) 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市玄鼻公園) 浦安市主催：親子平和バスツアー同行(川崎市平和館・昭和館) つくしの会主催：学習会「認知症と対応」(市民プラザ) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 友愛会主催「ピースフェスティバル千葉2008」参加(千葉市民会館) 被爆者健診立ち合い(市川健康センター) 厚労省前行動参加 千葉県都市部経験交流会(松戸市民会館) 原爆被災展及び被爆体験講話(市民プラザ) 長崎継承部員講話同行：美浜中・日の出小・浦安中・美浜北小 千葉県原爆症認定訴訟第1次訴訟判決傍聴(千葉地裁) 高裁控訴審第1回口頭弁論傍聴(東京高等裁判所) 千葉駅前クリスタルドーム行動参加 被爆者健診立ち合い(市川健康センター) 厚労省前行動・高裁101法廷・衆議院会館報告集会参加
2009年(H・21)	第16回総会「美浜公民館第1会議室」 原爆症認定千葉2次訴訟裁判傍聴(千葉地裁) 原爆症認定訴訟中央行動参加(厚労省前) 浦安子ども劇場主催：「学びあい・支えあい」被爆体験講話実施(市民活動センター) 原爆症認定訴訟 厚労省前行動参加 被爆体験講話：高洲北小 市民活動センター広場「平和の話を聞く会」被爆体験講話実施 友愛会主催「ピースフェスティバル千葉2009」参加(千葉市民会館) 浦安子ども劇場主催：「会員家族と被爆体験講話を聞く会」講師(市民活動センター) 被爆体験講話：明海中・北部小・美浜小・入船南小・美浜南小・入船北小 美浜北小・日の出小・浦安小・日の出南小・高洲小・明海南小・南小 原爆症認定千葉2次訴訟裁判傍聴(千葉地裁)

	原爆症認定訴訟厚労省前行動参加 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 浦安市主催：親子平和バスツアー同行(川崎市平和館・昭和館) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 千葉県原爆パネル展・被爆体験講話(千葉県庁本庁舎多目的ホール) 被爆者健診立ち合い(市川健康センター) 原爆症認定千葉2次訴訟裁判傍聴(千葉地裁) 原爆被災展/被爆体験講話(市民プラザ)・長崎平和推進協会懇親会 千葉県都市部経験交流会(習志野市サンロード分室) 議会へ陳情書提出「非核三原則」の法制化を求め意見書提出採択の陳情 『ふたたび被爆者をつくるなー日本被団協50年史』浦安市中央図書館へ寄贈 被爆者健診立ち合い(市川健康センター) 「柏商工会議所女性会」定例会講演『長崎での被爆体験』(三井ガーデンホテル柏)
2010年(H・22)	第17回総会(市民プラザ) 原爆症認定千葉2次訴訟裁判傍聴(千葉地裁) 被爆体験講話：東野小・北部小・見明川中・舞浜小・入船南小・明海中・東小 入船北小・富岡小・日の出南小・明海小・南小・浦安南小 見明川小・高洲北小・明海南小 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 浦安市主催：親子平和バスツアー同行(川崎平和館・昭和館) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 千葉県原爆パネル展・被爆体験講話(千葉県庁本庁舎多目的ホール) 友愛会主催「ピースフェスティバル千葉2010」参加(千葉市民会館) 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典 千葉県友愛会代表として宇田川太江子さん参列 被爆者健診立ち合い(市川健康センター) 被団協・友愛会意見交換会「国家補償問題」参加 千葉県都市部経験交流会(千葉市きぼーる) 浦安市市民功労賞受賞 「浦安市平和への願い2010」協力(市民プラザ)・長崎平和推進協会懇親会 長崎継承部員講話同行 「語り伝え研究会」参加(轟公民館) 被爆者健診立ち合い(市川健康センター) 原爆症認定制度の抜本改正を目指す院内集会参加(参議院議員会館) 「全国母親大会」実行委員会出席(浦安小) 浦安市戦没者追悼式典参列 友愛会40周年「記念講演と明るい音楽の集い」(ホテルプラザ菜の花) 浦安市社会福祉協議会東二支部 ふれあい祭り被爆体験講話 (老人福祉センター)
2011年(H・23)	第18回総会 東日本大震災のため書面決議 被爆者援護法改正検討会参加(千葉市轟公民館) 被爆体験講話：東野小・入船南小・見明川中・日の出南小・明海小・見明川小 高洲小・北部小・南小・美浜南小・美浜北小・浦安小・日の出小 舞浜小・富岡小 千葉県母親大会「被爆と被曝の実相」千葉医放総研と出講(浦安市文化会館) 「語り伝え研究会」参加(千葉市轟公民館)

	浦安市主催：親子平和バスツアー同行(川崎市平和館・昭和館) 千葉県原爆死没者慰霊式典参列(千葉市亥鼻公園) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 被爆者健診立ち合い(市川健康センター)上川さん入会 京都、北白川教会修養会講演「被爆の思い」(京都市産業会館) 原爆被災展/被爆体験講話(市民プラザ)・長崎平和推進協会懇親会 長崎継承部員講話同行：東小・日の出中 「語り伝え研究会」参加(千葉中央コミュニティーセンター) 友愛会被爆者援護法改正を求め署名街宣行動参加(JR柏駅) 浦安ライオンズクラブ「語り部」(ホテルオークラ東京ベイ) 「語り伝え研究会」参加(千葉中央コミュニティーセンター) 平和と文化のつどい語り部(四街道文化センター大ホール) 被爆者健診立ち合い(市川健康センター) 「語り伝え研究会」参加(千葉市轟公民館)
2012年(H・24)	岡本市議と被爆と平和の勉強会についての打ち合わせ 第19回総会(市民プラザ) 原爆症とフクシマ報告集会参加(日本教育会館) 「語り伝え研究会」参加(千葉市轟公民館) 友愛会被爆者語り伝え研究会参加(千葉市轟公民館) 被爆体験講話：美浜南小・明海南小・日の出南小・日の出小・東野小・ 入船北小・高洲小・見明川小・高洲北小・美浜北小・富岡小 浦安市主催：親子平和バスツアー同行(第五福竜丸展示館・昭和館) 千葉県原爆死没者慰霊式典執行と参列(千葉市亥鼻公園) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 浦安市議有志被爆勉強会(文化会館会議室) 被爆者健診立ち合い(市川健康センター) 原爆被災展及び長崎継承部員講話(市民プラザ) 長崎継承部員講話同行：舞浜小・入船中 非核報告会参加(JICA地球ひろば) 出羽文明さん市民功労賞受賞 「語り伝え研究会」参加(千葉市轟公民館) 被爆者健診立ち合い(市川健康センター) 国会院内活動「国の償い実現運動」参加(衆議院第二議院会館) 被爆者援護法改正 JR松戸駅 街頭 署名キャンペーン参加
2013年(H・25)	第20回総会(市民プラザ) 「語り伝え研究会」参加(千葉市轟公民館) 被爆体験講話：美浜南小 浦安市主催：親子平和バスツアー同行(第五福竜丸展示館・昭和館) 千葉県原爆死没者慰霊式典執行と参列(千葉市亥鼻公園) 非核平和街頭キャンペーン協力(浦安市) 友愛会主催「ピースフェスティバル千葉2013」(千葉市文化センター・アートホール)

年表は、平成25年8月末日現在